

北登会 平成22年10月3日(日)
第10回 歴史探訪ハイキング 配布資料

「古市古墳群と修羅」

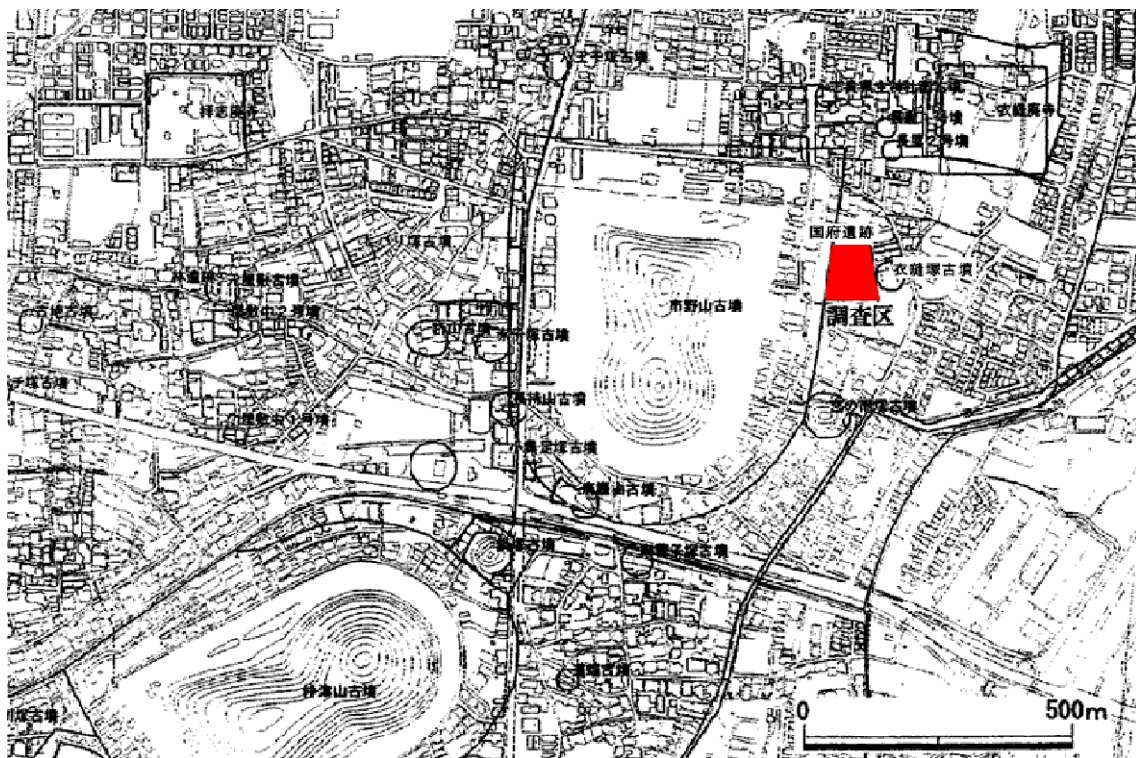
担当:3丁目 井守 徳弘

近鉄学園前駅＝鶴橋駅＝近鉄阿部野橋駅＝土師ノ里駅－市野山古墳(允恭天皇陵)－長持山古墳出土家形石棺展示施設－仲津山古墳(応神天皇皇后陵)－道明寺－道明寺天満宮－三ツ塚古墳)－古室山古墳－赤面山古墳－大鳥塚古墳－誉田御廟山古墳(応神天皇陵)－蕃所山古墳－アイセル・シュラホール－岡ミサンザイ古墳(仲哀天皇陵)－鉢塚古墳－辛国神社－葛井寺－近鉄藤井寺駅＝阿部野橋＝鶴橋駅＝学園前駅
(解散:5時ごろ) (徒歩距離 約6km)

●市野山古墳(第19代・允恭天皇陵)

墳丘長は227mで全国20位。前方部の高さ23.3m、後円部の高さ22.3m。宮内庁によって第19代允恭天皇の陵墓に比定されている。北向きの前方後円墳で、墳丘は三段築成、両側にくびれ部が見られる。周濠は盾形で二重にめぐる。

出土した埴輪は、窖窯(あながま)で焼成された製品で、円筒埴輪のほか家・盾・靱(ゆき・矢を入れる道具)・蓋・人物等の形象埴輪が出土しています。出土した埴輪などから、築造年代は5世紀後半とされる。



平成18年(2006年)11月、藤井寺市教育委員会により国府(こう)遺跡(市野山古墳北東部)発掘調査されています。

調査区の北部で円墳1基、方墳と思われる古墳1基およびそれに付随する埴輪円筒棺墓3基(調査区全域では5基)を検出しました。これらは、市野山古墳外堀にほぼ接して造営されており、陪塚の可能性が考えられます。



出土した埴輪円筒棺墓

●長持山古墳出土家形石棺展示施設

長持山古墳は5世紀後半につくられた直径約40mの円墳です。昭和30年までに土木工事により墳丘を失ってしまいました。

明治10年頃に銅器、鉄剣、甲が出土したと伝えられ、アメリカ合衆国マサチューセッツ州のボストン美術館所蔵の神人(しんじん)画像鏡は、この時出土し、流出したものとされています。昭和21年には発掘調査が行われ、墳丘規模や円筒埴輪列、2基の埋葬施設が確認されました。出土した2基の石棺は、遠く九州の阿蘇山で産出する溶結凝灰岩ないしピンク凝灰岩製の刳抜式家形石棺です。

長持山古墳の家形石棺の最初の報告者は、イギリス人のウィリアム・ゴーランドという人物です。わが国の古墳研究の先駆けとなりましたが、明治初期の日本政府が西欧の最新技術を取り入れるために招聘したお雇い技術者でした。彼は明治5年に来日し、大阪の造幣局に冶金学の技術指導者として16年間日本に滞在しています。

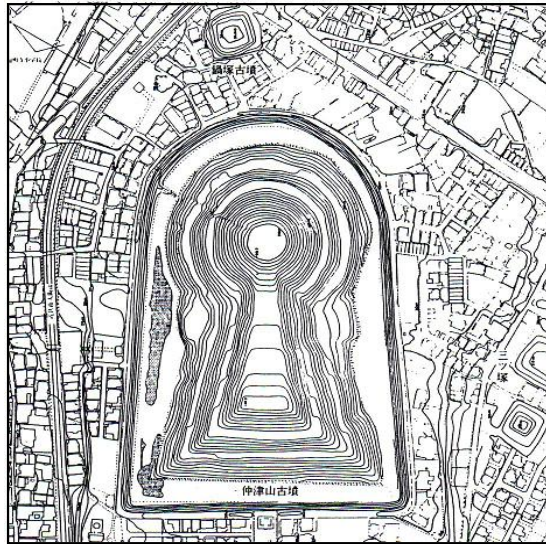
また日本アルプスの名称は明治14年発行の『日本案内』に用いたことでも知られています。

●仲津山古墳(応神天皇の皇后・仲姫命(なかつひめのみこと)御陵)

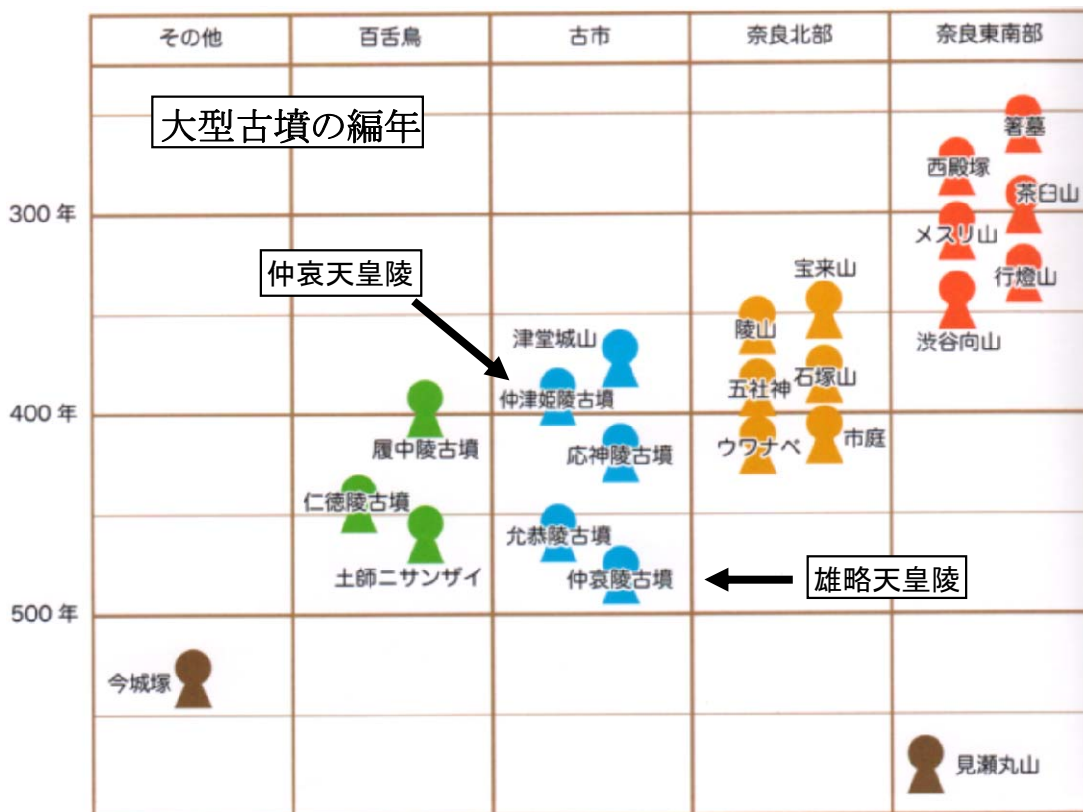
全長約290m、後円部径約170m、高さ約26.2m、前方部幅約193m、高さ23.2mで、古市古墳群で2番目、全国でも10番目の大きさを誇る。墳丘は三段築成で、葺石と埴輪が確認される。くびれ部の両側には造り出し

がある。
 主体部については不明であるが、石棺が存在することや勾玉が出土したことが伝えられている。また、発掘調査により、外堤外法面(のりめん)に葺石が施されていることが判明した。

仲津山古墳の実測図



『日本書紀』よれば、仲津姫は景行天皇の皇子の五百城入彦(いおきいりひこ)の娘で、姉の高城入姫や妹の弟姫(おとひめ)と共に応神天皇の妃になっている。応神天皇2年に皇后に立てられ、三人の子供をもうけた。荒田皇女(あらたのひめみこ)、大鷦鷯皇子(おおささぎのみこ)、根鳥皇子である。大鷦鷯皇子は後に第16代・仁徳天皇として即位する人物である。



考古学的知見では、仲津山古墳は応神陵古墳より築造時期が古いことが判明している。ということは、この墓に葬られた人物は仲津姫ではなく第14代の仲哀天皇陵ではないでしょうか。

仲津姫陵は古室山古墳(5世紀前半)または大鳥塚古墳(5世紀前半)がふさわしい。そうすると、仲哀天皇陵に比定されている岡ミサンザイ古墳(5世紀中期末葉～後期前葉)は第21代雄略天皇陵ではないか。雄略天皇陵と比定されているのは近鉄高鷲駅北の島泉丸山古墳である。墳丘の直径は約76mの円墳であり天皇陵としてあまりに品格がない。ちなみに雄略天皇は稲荷山古墳出土の鉄剣銘に記されている「獲加多支鹵大王」とされている人です。

雄略天皇は『日本書紀』によると丹比(たじひ)高鷲原陵に葬られたとあり、地理的に高鷲でおかしくない。岡ミサンザイ古墳は昼から行くアイセル・シュラホールの西にあります。

●道明寺(真言宗の尼寺)

道明寺周辺は、菅原道真の祖先にあたる豪族、土師氏の根拠地でした。道明寺は土師氏の氏寺土師寺として建立され、今の道明寺天満宮の前にあった。当時は七堂伽藍や五重塔のある大規模なものであった。

平安時代中期の延喜元年(901年)、大宰府に左遷される道真がこの寺にいた叔母の覚寿尼を訪ね別れを惜しんだと伝えられる。この故事は、後に人形浄瑠璃・歌舞伎の『菅原伝授手習鑑』「道明寺」の場にも描かれている。道真の死後、寺名は道明寺と改められるが、これは道真の号である「道明」に由来します。



『菅原伝授手習鑑』2段目「道明寺」の場

菅丞相の伯母で丞相の養女刈屋姫の実母覚寿の館が舞台です。旅立ちの朝、夜明けまでの暗闇の中で起こる殺人事件がミステリアスに描かれます。

天正3年(1575年)には、兵火で天満宮を含む寺の大部分が焼失するが、後に再興。明治5年(1872年)の神仏分離により道明寺天満宮境内から現在地に移転した。

本尊は国宝の木造十一面観音立像で平安時代初期、菅原道真公作。



木造十一面観音立像(国宝)

●道明寺天満宮

祭神は菅原道真公、天穗日命と、菅原道真公の叔母に当たる覚寿尼公です。

現在も学問の神として人々に親しまれている。また境内には80種800本の梅の木があり、梅の名所として知られている。



国宝伝菅公遺品

○修羅保存庫

重機の存在しなかった時代に重いものを運ぶ重要な手段であった。コロなどの上に乗せることで、摩擦抵抗を減らした。

昭和53年(1978年)3月に藤井寺市で三ツ塚古墳の周濠から、大小2つの修羅が出土。大きい修羅は大阪府立近つ飛鳥博物館で展示されている。

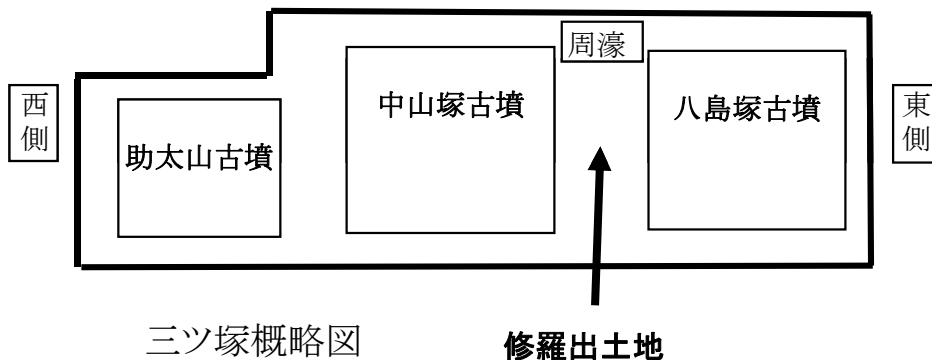
覆屋の修羅保存庫の修羅は復元品ですが、大小の修羅が置かれている。実証実験に使われた当時の状態そのままに巨大な石が上に載せてある。

昭和53年(1978年)、朝日新聞社が文化事業として修羅の復元に取り組み、それを使った牽引実験を行いました。徳之島から探し出したカシの大木を使い造られました。製作の指導は、薬師寺金堂の復元建立などで有名な宮大工棟梁の故・西岡常一氏に依頼し実施されました。

牽引実験は、藤井寺市の東部を流れる石川の河川敷で行われました。多くの市民や中学生、自衛隊員など400人が牽引の人手として協力し、実際に14トンの花崗岩を乗せて綱で曳く実験が、何通りも行われました。

修羅が出土したのは昼から行く予定の三ツ塚です。三ツ塚は東から順に、八島塚古墳、中山塚古墳、助太山古墳と呼ばれています。前の二つは宮内庁が管理しており、助太山古墳だけが国の史跡に指定されています。

八島塚古墳と中山塚古墳は、墳丘が一辺50mと、形と大きさが同じです。助太山古墳は、一辺36mと、ひとまわり小さくなっています。



昭和53年(1978年)、大阪府教委が八島塚古墳と中山塚古墳の間の濠の部分の発掘調査を行われました。濠底をさらに1.3mほど掘り下げたところから、大小二つの木製の修羅がてこ棒とともに発見されました。道明寺天満宮の修羅保存庫に復元された修羅です。

大修羅はアカガシの二股にわかれた部分を使用して一木で造られている。全長8.75m、最大幅1.85m。

小修羅はクヌギの二股にわかれた部分を使用して一木で造られている。全長2.82m、最大幅0.73m。

助太山古墳の墳丘には石が露出し、横口式石槨が考えられるため、7世紀の終末期古墳と思われます。しかし、7世紀説とがあり、確定はしていません。

●古室山古墳

全長約150m、後円部径約96m、高さ約15.3m、前方部幅約100m、高さ約9.3m。墳丘は三段築成で、葺石が確認される前方後円墳です。

現在、くびれ部の東側のみに造り出しが残り、周囲に周濠と堤をめぐらしている。

内部構造や副葬品については不明であるが、後円部頂に板石が見られることから竪穴式石槨の存在が推測される。

墳丘には円筒埴輪列があり、家・蓋・盾・鞞(ゆぎ・矢をいれる道具)・冑形などの形象埴輪も確認されている。

出土した埴輪の特徴から、仲津山古墳のやや後の、5世紀前半の築造です。私は北東の仲津山古墳を仲哀天皇陵としたため、この古室山古墳または大鳥塚が仲津姫陵と見えています。

●赤面山古墳

大鳥塚古墳の北側、西名阪自動車道の高架下の小さな土の高まりが赤面山古墳です。

現状からすると、墳丘の一辺が15mの方墳と考えられます。

人を葬った施設などは分かっていません。

●大鳥塚古墳

前方後円墳で全長約110m、前方部の幅50m・高さ6.1m、後円部の直径72.6m、高さ12.3mである。

墳丘からは葺石と円筒埴輪列が確認されている。くびれ部の両側に造出しがあり、幅の狭い水のない濠が周囲をめぐっている。

埋葬施設は不明であるが、副葬品として銅鏡2面、鉄剣、鉄刀、鉄矛、鉄鏃が出土したと伝えられている。

この古墳からは、円筒埴輪のほか、家形・蓋形・盾形・鞞(ゆぎ)形・冑(かぶと)形などのさまざまな形象埴輪が出土している。

出土した埴輪の特徴から、5世紀前半の築造と考えられている。

この大鳥塚または古室山古墳が仲津姫陵と見えますが、どちらかというところ、応神天皇陵に近いのでこちらの大鳥塚ではないでしょうか。

●誉田御廟山古墳(応神天皇陵)

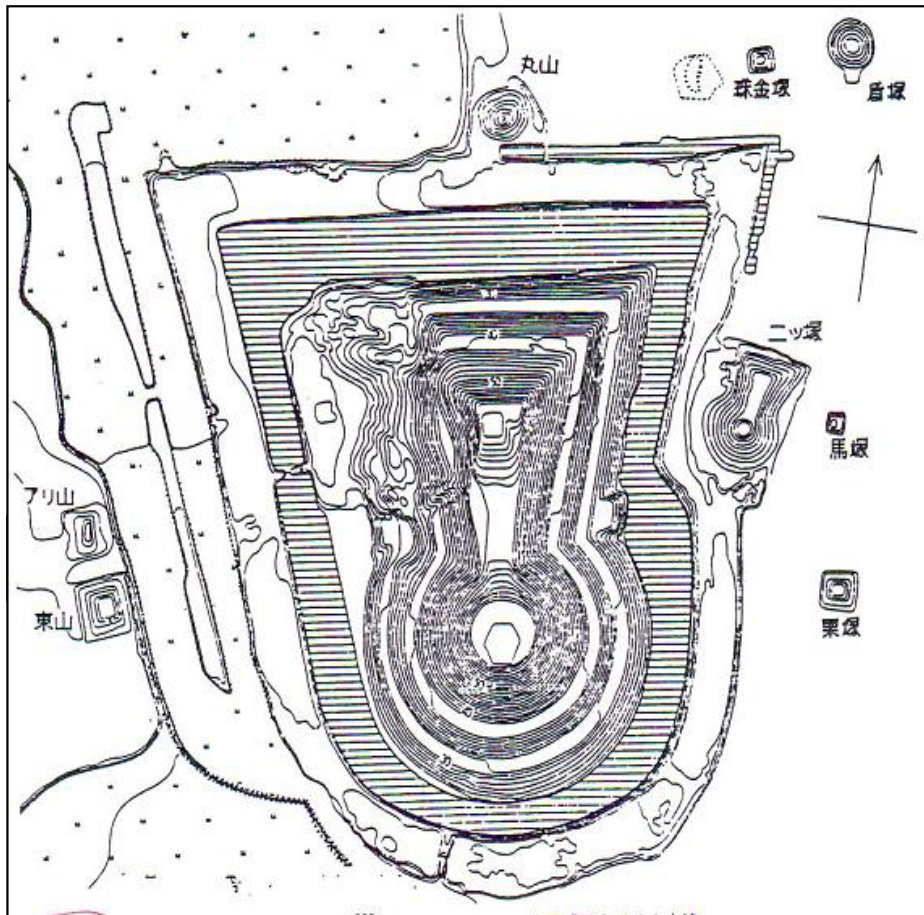
古市古墳群の中心となる古墳で、全長420mの墳丘の長さは、百舌鳥古墳群の仁徳天皇陵(大仙陵古墳・全長486m)に次ぐ巨大前方後円墳である。

現在、宮内庁によって応神天皇の陵墓に治定されており、内濠と内堤より内側のみを宮内庁が管理している。外濠と外堤は民有の農地となっていたが、大古墳の一部として、昭和53年(1978年)に外濠、外堤のみを独立して史跡に指定されました。

陵号は恵我藻伏岡陵(えがのもふしのおかのみささぎ)です。

百舌鳥古墳群とともに古市古墳群が世界遺産の国内暫定リストに追加されています。

築造時期は5世紀初頭の築造と考えられている。
 造営前から二ツ塚古墳が存在しており、それを避けるように造っているため、
 周濠と内堤が歪んでいる。
 埴輪の種類が多い。円筒、蓋、家、盾、甲(よろい)、草摺(くさずり、鎧の胴に
 付属し腰から上脚部を守る部分)、水鳥など。
 内濠から土師器と共に魚形土製品が10個出土している。鯨、烏賊(いか)、
 蛸、鮫、海豚(いるか)などが出土しました。
 奈良ウワナベ古墳の造出周辺からも魚形土製品などが出土しているそうです。
 円筒埴輪や円形埴輪、後円部側の外濠の外部で馬形埴輪なども出土して
 います。直径74cmの蓋の木製の埴輪も副葬されていた。



誉田御廟山古墳(応神天皇陵)

国宝の金銅製竜文透彫鞍金具
 (誉田八幡宮所蔵)



○応神天皇

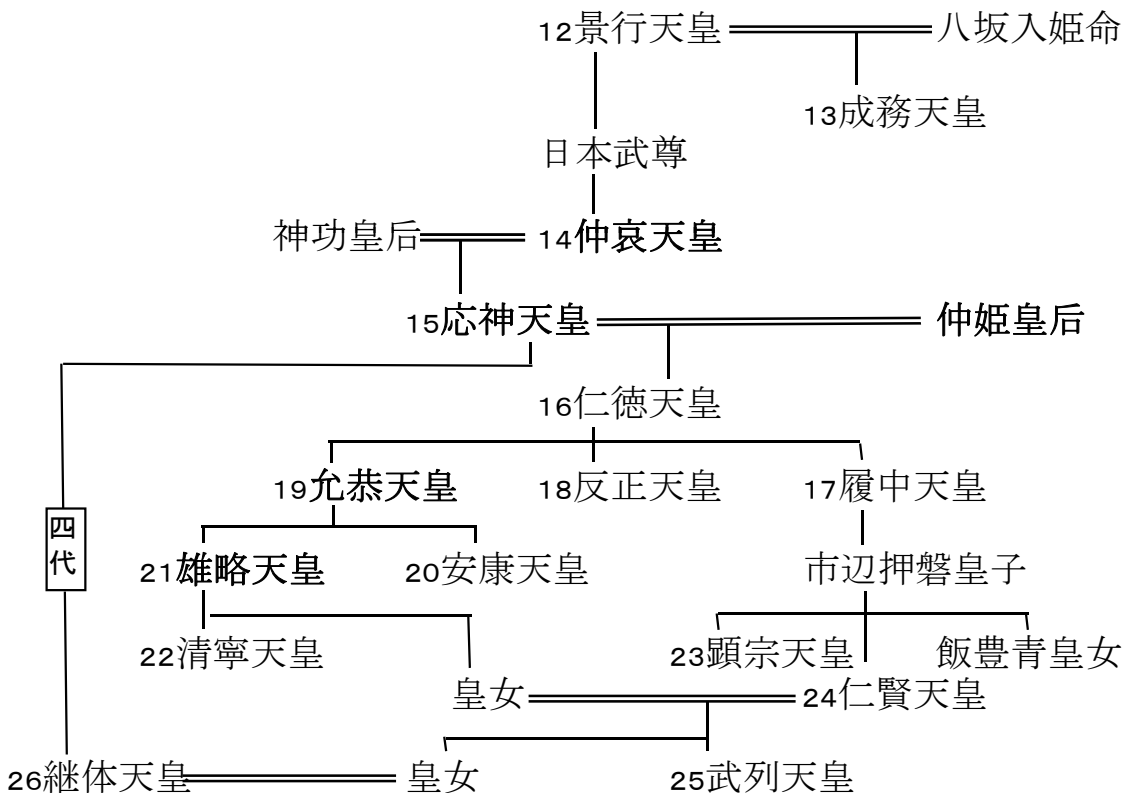
朝鮮半島を攻めた神功皇后が、朝鮮に赴いたとき胎内に宿していたのがこの応神天皇(誉田別尊)です。神功皇后の夫である仲哀天皇は、「新羅は金銀の宝庫である。」という神託を信じず崩御してしまうが、その妃である神功皇后によって朝鮮半島の制圧が企てられた(三韓征伐)。

筑紫へ凱旋してきた神功皇后は、俄に産気づき皇子を産み落とします。この皇子が応神天皇(誉田別尊)です。

『古事記』に、百済の国主照古王(百済の近肖古王)が、雄雌各一頭を阿知吉師(あちきし)に付けて献上したとある。また、横刀(たち)や大鏡を献上した。また「もし賢人しき人あらば貢上れ」と仰せになったので、「命を受けて貢上れる人、名は和邇吉師(わにきし・王仁)。すなわち論語十卷、千字文一卷、併せて十一巻をこの人に付けてすなわち貢進りき。この和爾吉師は文首等の祖。また手人韓鍛(てひとからかぬち)名は卓素(たくそ)また呉服(くれはとり)の西素(さいそ)二人を貢上りき」。『書紀』の15年8月条と16年2月条に同様の記事が見える。

これらは当時多くの渡来人が来て技術を伝えていたことを伝えています。

○天皇系図



●蕃所山古墳

周辺の住宅街ができるときに現在のよう形で墳丘が保存されました。直径22m、高さ3mの円墳ですが、本来はもう少し大きかったと思われます。



蕃上山古墳出土の人物埴輪

●アイセル・シュラホール

建物の外観は、市内から出土した古代の修羅と、古代船の埴輪の形を組み合わせた姿をイメージしたものとなっています。

2階の歴史展示コーナーでは、倭の五王(讃・珍・済・興・武)の時代のものが、展示されています。土師(はじ)氏の古墳があったり、大量の武器と玉が語る世界があります。誉田御廟山(こんだごびょうやま)古墳の陪塚の一つ野中古墳からは、大量の鉄製の武器、武具が発掘されました。また、濠からは、四万点以上もの玉類が見つかっています。

●岡ミサンザイ古墳(仲哀天皇陵)

築造年代は5世紀後半。墳丘の長さは242mで、古市古墳群では4位、全国で18位の規模の大型前方後円墳です。

中世に城郭として利用された形跡があり、当初の状態から大きく変化している。また、発掘調査によって外堤から円筒・盾型埴輪などが出土した。

宮内庁によって仲哀天皇陵に比定されているが、古市古墳群の中でも出土した円筒埴輪などから、5世紀後半に造られたと見られる点から、築造年代と時代が合う雄略天皇陵と考えます。

○第14代・仲哀天皇

『古事記』『日本書紀』に記される第14代の天皇で、父は日本武尊で神功皇后の夫・応神天皇の父とされる。

『日本書紀』によれば、筑紫で熊襲を討つことを協議したとき、神功皇后が神がかって、住吉大神のお告げを受け、熊襲よりも新羅を先に討つことを託宣があった。仲哀天皇は託宣を信ぜず、熊襲を討ったが勝つことができなかった。そのうえ病気になる、52歳で没した。『古事記』では、神の怒りに触れて翌日急死したという。

○第21代・雄略天皇

允恭天皇の第5皇子で、第20代・安康天皇の同母弟。気性が激しいため天下の人々には大悪天皇との謗りを受けていたようだ。安康天皇が眉輪王に刺殺された後、王位につくため兄の坂合黒彦皇子、八鈞白彦皇子をもその黒幕として殺害。時期天皇の有力候補だった市辺押磐皇子を狩に誘い出し射殺して即位。平群、大伴、物部の軍事力をがバックに武力と政略結婚により各地の豪族達を従え、強大な地方政権を持っていた。

昭和53年(1978年)に稲荷山古墳(埼玉県行田)出土の鉄剣の銘文「獲加多支鹵大王(わかたけるおおきみ)」は雄略天皇のことだといわれています。

●鉢塚古墳

全長60mの前方後円墳です。前方部は西を向いています。表面の土の流出などで、もとの形はやや不明瞭になっています。墳丘のまわりには濠がめぐっていましたが、現在は埋め立てられ、その上に藤井寺西幼稚園が建っています。

埋葬施設や副葬品などは分かっていません。しかし、墳丘に石を葺いた形跡が認められないことなどから、5世紀末から6世紀初めに造られたものと思われる。

大阪府の史跡に指定されています。

●辛国神社

当社は今から1500程前、雄略天皇の御代に創設された神社で、平安時代には官社となり、式内社として人々の尊信を集めてきた神社です。

『日本書記』の雄略13年3月「餌香長野邑を物部目大連に賜う」とありますが、餌香長野邑は、旧藤井寺町のあたりと思われます。この地方を治めることになった物部氏は、その祖神を祀って神社をつくり、その後、辛國氏が祭祀をつとめ辛国神社と称するようになりました。

『三代実録』には、清和天皇貞観9年2月26日「河内国志紀郡辛国神社を官社に預る」とあります。元の神社は恵美坂(藤井寺駅の南西すぐ)にあったと思われる。室町時代(義満の頃)河内守護職畠山基国氏が社領200石を寄進して、現在地に神社を造営し、奈良春日大社に懇請してその祭神、天兒屋根命を合祀したと伝えられています。

明治41年、長野神社の祭神素盞鳴命を合祀して現在に至っています。

社殿は昭和63年(1988年)に再建されたものです。

祭神は饒速日命(瓊々杵尊の兄。物部氏の祖神)・天兒屋根命(藤原氏の祖神)・素盞鳴命(天照大神の弟)。

●葛井寺

葛井寺は、紫雲山三宝院剛琳寺と号します。古代氏族葛井氏の氏寺として、7世紀後半の白鳳時代に建立されました。

寺伝では神亀2年(725年)、聖武天皇の勅願で行基が創建したとあります。

平安時代後半には観音霊場として知られるようになり、江戸時代から西33番観音霊場の第5番札所として賑わっています。

寺蔵の古絵図や『河内名所図会』からみると、東西に塔をもつ薬師寺式の伽藍配置をとっていたことが知られます。

『河内名所図会』
の一部



「…ここに明応2年(室町時代の1493年)兵火に罹りて、楼門・中門・三重大塔・鎮守…等焼亡し」とあります。図中に基壇跡が2ヶ所みえる。

楼門を入り右手、池の後方の基壇が東塔跡と思われる。現在、心礎が残っています。

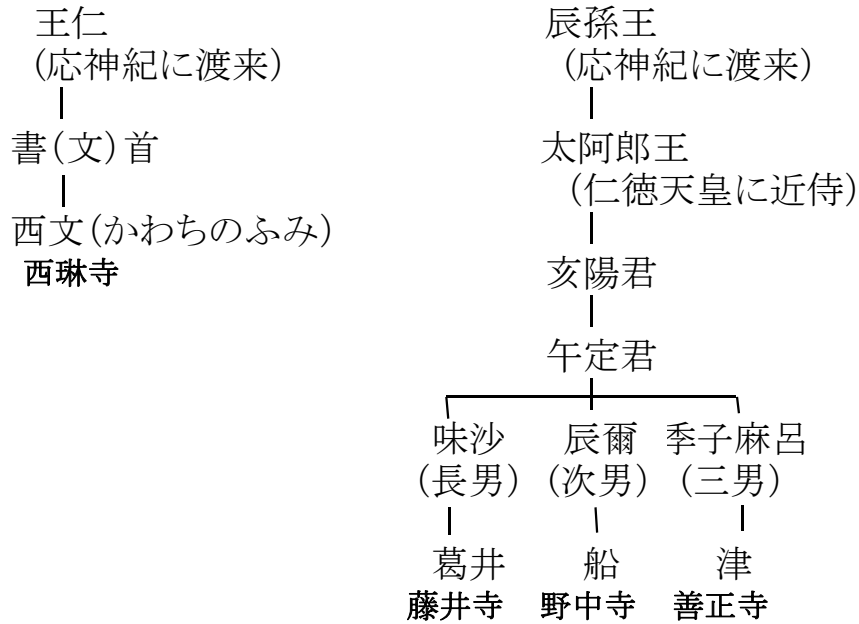
近世は豊臣家・徳川家の庇護を受け、とくに豊臣秀頼が寄進した四脚門は、桃山様式をよく伝える建造物として、国指定の重要文化財となっています。この門はもと南大門として建てられましたが、現在の西門の位置に移建されました。

ご本尊の千手観音菩薩坐像は、寺伝によれば、像高1.5mの半丈六の脱活乾漆造りです。大阪府下唯一の天平仏として、昭和13年に国宝に指定されました。

本尊十一面千手千眼
観世音菩薩像 国宝



「百済系の渡来人」



『日本書紀』応神天皇16年2月に王仁(わに)が来た。王仁は書(ふみ)首(おびと)らの先祖である。太子菟道稚郎(うじのわきいらつこ)は王仁を師とされた。『古事記』には和邇吉師(わにきし)は論語10巻、千字文1巻を奉った。和邇吉師は王仁と同一人物です。

『続日本紀』称徳天皇宝亀元年(770年)3月28日に「葛井・船・津・文・武生・蔵の6氏の男女230人が歌垣に奉仕した」とある。

『続日本紀』桓武天皇延暦9年7月17日に、「王辰爾の祖は、百済の貴須王の孫の辰孫王で応神紀に渡来し、その長子太阿郎王は仁徳天皇に近侍したとし、その子亥陽君。その長子午定君。その長子が味沙。次男が辰爾。3男が季子麻呂。この3氏が3姓になり、葛井、船、津になったとある。

(参考文献)

- ・百舌鳥・古市大古墳群展図録 大阪府近つ飛鳥博物館 2009年
- ・河内平野の集落と古墳図録 大阪府近つ飛鳥博物館 2009年
- ・応神大王の時代図録 大阪府近つ飛鳥博物館 2006年
- ・河内古代寺院巡礼 大阪府近つ飛鳥博物館 2007年
- ・藤井寺市文化財ガイドマップ 藤井寺市教育委員会
- ・日本書紀(上) 宇治谷孟 昭和63年
- ・古事記(中)(下) 次田真幸 1995年 (株)講談社
- ・Wikipedia:ウィキペディア フリー百科事典

